

講演「ELSI に関する研究や実践に伴走する：大阪大学 ELSI センターでの事例」

水町 衣里 (大阪大学 社会技術共創研究センター 協働形成研究部門 准教授 兼 URA)

▶ スライド 1

水町 大阪大学の水町です。よろしくお願いします。きょうは、冒頭からさまざまな方のスライドに大阪大学 ELSI センターという名前が入っていて、少々プレッシャーを感じています。

私からは、大阪大学社会技術共創研究センター、通称、ELSI センターについてのご紹介をさせていただきます。

その前に、簡単な自己紹介をさせてください。私は、学生の頃は、農学部で森林生態学について学んでいました。修士課程の頃に、科学コミュニケーションというキーワードに出会い、博士課程修了の後、少し分野を変える形で、京都大学の複数の機関で科学コミュニケーションや科学教育的な研究・実践活動へ足を踏み入れることになりました。

10 年前のきょう 3 月 16 日は、「科学・技術フェスタ」というイベントが京都で開催されていた日です。当時、私は京都大学物質－細胞統合システム拠点 (WPI-iCeMS) の科学コミュニケーショングループに所属していましたので、当日は京都大学 iCeMS で行われていた研究を一般の方向けに分かりやすく、面白く、楽しく紹介する展示ブースの運営をしていました。

大阪大学には、2016 年から在籍しています。大阪大学に移ってからは、本日の基調講演をされていた小林先生が立ち上げに関わられていた公共圏における科学技術・教育研究拠点 (STiPS) が提供する大学院生向けの教育プログラムの運営や、サイエンスカフェ・市民参加型ワークショップなど、科学技術に関わる多様な対話の場の企画・運営に関わってきました。

▶ スライド 2

さて、本題に入ります。本日は、まず最初に大阪大学 ELSI センターの全体の概要を説明した後、さらに特徴的な活動をいくつかご紹介します。

▶ スライド 4

大阪大学 ELSI センターは 2020 年 4 月にスタートしました。私自身はセンターが立ち上がったときからのメンバーです。URA という肩書がついたのは今年度 (2022 年度) の 4 月です。

▶ スライド 5

ここで、センターの正式名称について、いつもセンター長が使っているスライドを使って説明します。センターの正式名称は「社会技術共創研究センター」といいます。先ほどからも話がありますように、新しい科学技術が社会に実装されようとするときには、さまざまな課題がうまれることがあります。それが ELSI (倫理的・法的・社会的課題) と呼ばれるものです。その ELSI を事前に発見し、対応を試み、解決できるものは解決するためには「社会技術」が必要です。その社会技術をさまざまなステークホルダーのみなさんと「共に創り」つつ、「研究」を進めるセンターという意味が込められています。

▶ スライド 6

学内外のさまざまな分野の研究者だけではなく、行政や市民、事業者と一緒に研究や実践を行うことを目指して設立されました。

▶ スライド 7

大阪大学 ELSI センターは、三つの部門に分かれていて、それぞれの部門がそれぞれの機能を担っています。ちなみに、私は協働形成研究部門のメンバーです。この三つの部門が連携し、ELSI 人材の育成を担います。三つの部門で四つの機能を担うとされています。

2023 年 3 月現在、コアメンバーは 17 人です。スライドには、メンバーの専門分野を示していますが、多様なバックグラウンドを持った研究者が集っています。ぜひ、ウェブサイトのスタッフリストもご覧ください。他にも、多くの兼任教員の先生がたや、学外の招へい教員の先生がたに関わっていただいています。

▶ スライド 8

ここからは、大阪大学 ELSI センターがここまでの 3 年間に行ってきた特徴的な活動を取り上げながら話を進めます。ただ、今回ご紹介するものは、私が関わってきたものに限られています。

▶ スライド 9

大阪大学 ELSI センター設立直後、2020 年 4 月の半ばには、ELSI NOTE の発行が開始されました。これは、国内外の ELSI に関する研究・実践活動の最新動向を紹介するディスカッションペーパーのようなものです。2020 年 4 月から 2023 年 3 月までに、25 本の ELSI NOTE が公開されました。大阪大学のリポジトリ（大阪大学学術情報庫 OUKA）にも登録されています。

▶ スライド 10

2022 年度に発行された ELSI NOTE のタイトルをスライドでご紹介しています。多様なトピックが取り上げられていますので、お時間のあるときにご覧ください。

私は、この ELSI NOTE をウェブサイトに掲載したり、リポジトリに登録したりという裏方の作業を日々、行っています。

▶ スライド 11

次にご紹介するのは、「共創研究プロジェクト」です。冒頭でお話したように、ELSI センターはさまざまな組織と協働して ELSI に取り組むことをうたっていることもあり、その象徴的な取り組みになります。

主に産業界との連携するプロジェクト、そして、主にアカデミアとの連携するプロジェクトがあり、合わせて七つのプロジェクトをウェブサイト上で公開しています。

▶ スライド 12

センターの設立直後から動いているプロジェクトは二つあり、そのうちの一つがデータビジネス ELSI 研究会です。データビジネスに関わる企業の皆さんと、倫理、法律、社会の各領域の研究者が集まり、各社が抱えている課題を持ち寄り、議論をするような研究会が、開催されてきました。実は、これはセンター設立の少し前から動いていたプロジェクトだそうです。

これまでに公表された活動内容としては、例えば、株式会社リクルートのプライバシーセンターの在り方についてのレビューを実施したり、大阪メトロのパーソナルデータに関する倫理指針

の策定に関与したり、ということがあります。

▶ スライド 13

センターの設立直後から動いているプロジェクトのもう1つが、株式会社メルカリとのプロジェクトです。株式会社メルカリには mercari R4D という研究開発組織があり、この mercari R4D の研究開発倫理指針の策定に関わったり、社内での研修を行ったりしています。

これら2つの共創研究プロジェクトに関しては、ELSI NOTE や学会発表、論文などで公表されているものが複数ありますので、ご興味がある方はぜひご確認ください。

▶ スライド 14

2022 年度に入ってから、さらに多様なプロジェクトが一気に始まりました。スライドでは、タイトルだけのご紹介になりますが、株式会社リコー、日本電気株式会社（NEC）、日本放送協会（NHK）放送技術研究所とのプロジェクトを進めています。具体的な内容については、ウェブサイトをご覧ください。

▶ スライド 15

アカデミアとの連携としては、EdTech の ELSI を考えるプロジェクトや、脳科学に関わる ELSI を扱うプロジェクトもスタートしています。

▶ スライド 16

七つのプロジェクトを一通りご紹介してきました。連携先もさまざま、扱う技術もさまざまですが、私たち大阪大学 ELSI センターの関わり方は大きく二つに分けることができるのではないかと思います。

一つは、ここまでの講演でも「ELSI 論点抽出」というキーワードが出ていましたが、その ELSI 論点抽出を行うことを目的とした関わり方です。ELSI 論点抽出を行うに当たり、多様な専門家とのディスカッションの場をつくったり、市民参加型のワークショップを開くなどして市民の期待や懸念を可視化する場をつくったりすることも、この中に含まれます。

もう一つは、ELSI に対応できる組織づくりに伴走することを目的とした関わり方です。研究組織、もしくは業界団体で活用されるガイドラインや倫理指針を作るお手伝いということになります。ガイドラインや指針を作るだけでは、その組織の中で本当に活用されるかが分かりません。そこで、プロジェクトによっては、組織内の中での研修やワークショップなども一緒に行っています。

私は全ての共創研究プロジェクトに参加をしているわけではありませんが、プロジェクトメンバーの中では、星印を付けた項目に貢献しているのではないかと思います。

▶ スライド 17

ここまで駆け足でご紹介してきましたが、具体的な取り組み事例を手元でじっくり見たいという方は、リーフレット「ELSI センターが取り組む 共創研究・社会貢献」をご覧ください。このような広報物を外部のデザイナーと作るのも私の仕事の一つです。

▶ スライド 18

また別の活動の紹介に移ります。共創研究プロジェクトを進めることで得られた知見は、でき

るだけ多くの関心を持っているかたがたに届けたいと思っています。大阪大学 ELSI センターでは、情報を広く社会に向けて発信するオンラインイベントやオンライン講座の提供、あとは教育活動への接続もかなり積極的に行っています。

▶ スライド 19

例えば、ここにお示ししているのは2020年度末に行っていたオンライントークイベントです。大阪梅田にあるナレッジキャピタルで行った講座です。講座を配信するだけでなく、読み物として編集し直し、ELSI VOICE という冊子を発行することもしています。

▶ スライド 20

2022年度の夏には、オンライン講座プラットフォーム「gacco®」にて「ビジネスパーソンのための ELSI 入門 ―データ利活用編―」という講座も開講しました。多くの方に受講していただいたようで、講座修了者が342人だったそうです。

▶ スライド 21

冒頭で少しだけ紹介した公共圏における科学技術・教育研究拠点（STiPS）が提供する大学院生向けの教育プログラムとの連携も進めています。大阪大学 ELSI センターで扱っている研究課題を、ディスカッション形式の授業のテーマとして取り上げるといったことなどが行われています。

▶ スライド 22

最後にもう一つだけ事例をご紹介します。2022年度から、ELSI Forum という取り組みを新しく始めました。普段は、共創研究プロジェクトを進めているそれぞれの企業みなさんと ELSI センターメンバーとの打ち合わせが、それぞれ独立に行われているわけですが、年に1度は、全員で集まって、お互いの課題や知見を交換する機会があっても良いのでは、というコンセプトで始めたものです。もちろん、各社で表に出せること、出せないことはあると思うのですが、共有してみると悩みが共通していたり、課題が同じだったりするということがその場で明らかになりました。「要素技術が違っても課題に共通点が多くあることに気付いてよかった」というコメントを参加者からいただきました。会場が非常に盛り上がったこともあり、次年度以降も続けていきたいと思っています。

このように人がつながる場をつくる、実践活動や研究活動を適切に表に出すことが URA としての私の仕事だと思っています。

ご視聴ありがとうございました。

(了)